# 1. 読み手の期待に沿って文章を展開する

## 1. 文章の構成のしかた

- 思いつくままに書き綴った文章は、読み手には理解しにくい
- その理由は、書き手自身の考えそのものがまだ十分に固まっていないからである。
- 書き手が何を言いたいのか、つまり書き手の中心となる考えを明確に伝えるために、**文章を書くときには構成を考える**必要がある。
- 文章の構成に重要なことは、理論的な文章を書くための論理を理解することである。理解しやすい文章にするためには、文章が意味・内容のかたまりごとに順序よく構成されていなければならない。このことを視覚的に強調するのが（章）（節）（段落）である。

## 2. 文章に含まれているべきもの

(a) 題名（テーマ; konu）

書き手はある題名を選び、そのことについて書く。

(b)（情報がある）(bilgi)

書き手は情報、つまり書くための材料を集め、それらを整理して書く。

(c)（内容がある）(içerik, içindekileri)

書き手には、読み手に理解してもらいたい内容がある。

(d)（文章全体の構成がある）(yapı)

**文章は章に分かれ、章は段落に分かれ、一つ一つの段落はいくつかの文でできている。**また、文章を構成することばは（あいまいでないものを選択してある）。

(e)（文章には目的がある）(amaç)

どんな文章にも書いた目的が込められている。

## 2. 文と文のつながり

- 文章は（「段落」（文＋文＋文＋文…）＋「段落」＋「段落」…）でできている。
- 文と文の続き具合、段落と段落のつながりは**読み手の立場を考えて書き進めていく**
- 「つなぎ」の働き）を正しく知る
  - ✓ 文と文は、(「書き手の考えの論理性」）と（「読み手の期待」）とのつながりで結ばれている。
  - ✓ **このことを頼りに書き手は論理を進め、読み手は展開を期待する。**
- 文と文を正しくつなぎ、話の流れを良くし、後に続く内容を予想するヒントになる語句に注意する。

## 3. 接続詞

- 接続詞は（前の文と後ろの文)、または（前の段落と後ろの段落の関係）を明らかにする。
- それぞれの接続詞の意味や役割を無視して不用意に使うと、読み手は文と文、または段落と段落のつながりがわからなくなり、混乱する。
- 接続詞のタイプ：
  - ✓ （横並びの関係）：そして、また、同時に、その上、さらに、なお、しかも、…
  - ✓ （原因・結果の関係）：だから、それで、そこで、すると、なぜなら、したがって、その結果、…
  - ✓ （対立の関係）：しかし、だが、ところが、でも、が…
  - ✓ （等値の関係）：つまり、すなわち、言い換えれば、たとえば、…
  - ✓ （対比の関係）：そのかわり、一方、むしろ、または、あるいは、もしくは、…
  - ✓ （レベルの変化）：では、さて、ところで、とにかく、それでは…

問：以下の各文で用いられている接続詞は適切か。適切でなければ、改めなさい。

1. 彼女は外務省の特別調査員である。しかし、2 児の母親でもある。

2. 私は今年の夏までに 20 キロやせるつもりだ。なので、毎日職場まで歩いている。

3. 新しい車を買いたい。それに、資金が足りない。

4. 学科長は今週は職場にいらっしゃらない。つまり、来週まで待たなければならない。

5. 今週も授業で文法について話しましょう。ところで、宿題をしてきましたか。

- 接続詞には同じ役割を果たす語が数種類あることも多く、どれを使ってもよい）ケースもある。
- その場合、**文体に合うものを選ぶこと**、なおかつ**同じ語が頻出しないように選ぶ**ことを選択のときのポイントにする。